子どもの育ちに大切なもの

新潟県立看護大学　母性看護学・助産学
助教　髙塚　麻由

蒸し暑い上越の夏、皆さまいかがお過ごしでしょうか。どんなに暑くても、外を見れば汗一杯かきながら元気に遊ぶ子どもたちが目に入りますね。今回はそんな子どもたちのお話しです。

誰もが子ども時代を経て大人になりますが、この子ども時代について改めて考える機会がありました。昨年12月、東京都渋谷区の国連大学で開催された日本ユニセフ協会主催のシンポジウムに参加してきました。テーマは「人生と社会を左右する乳幼児期のケア」。小さな子ども時代における育ちの環境はその後の人生にとても大きな影響を与えるという内容です。子どもの育ちに必要な環境とは何か。それは、適切な栄養、愛情のある養護、そして遊びを通した刺激、概ねこのようなことです。これらはとても当たり前のことのように思われますが、この当たり前こそがとても重要で、その後の人生の基盤となってゆきます。幸いにも上越には美味しいお米、新鮮な野菜に魚が豊富にありますので、上越の味覚、食文化はぜひ次世代につなげていきたいものですね。

そして遊び。子どもにとって遊びは新しい発見の連続です。全身の感覚を使いながら、お腹がすくのも時間の経つのも忘れて遊ぶ姿、そうそう、ほんとにそうだったと思い出されます。子ども自身の探索行動、つまり遊びは子どもにとって自然な営みであり、愛情ある養護とはこの遊びを保障することも含みます。

大人の思うとおりにしようとしない時、子どもは持っている力を最大限発揮しようと、目を見開き、手を伸ばし、言葉にならない言葉で周囲に働きかけサインを出します。看護では母と子の相互作用という言葉を用いて説明しますが、日々繰り返される大人や環境との相互作用が子どもにとってはとても大切な日常なのです。

さて、子どもの育ちを考えるのにとてもよい映画「いのちのはじまり」をご紹介します。ここでは子どもの育ちについて沢山の言葉に出会えます。『子どもは身の回りにある色々な物で遊びたいだけ』つまり、高価なおもちゃはいらないんですね。『子どもの育ちには村が必要』という言葉もあります。ひとりの子どもが育つには両親の他にも沢山の人々が必要だということ、私たちは皆、村人のひとりだということです。私たち大人は、子どもの育ちの環境を保障する責任があります。ぜひ、子どもの育ちを見守る村人のひとりでありたいですね。